

# 浜坂町久斗山「創造の森」のクモ類

山本 一幸

## はじめに

兵庫県北西部、鳥取県との県境に位置する浜坂町。その南東部、久斗川の上流にある久斗山字本谷に、地域の住民によって整備された野外活動施設「創造の森」がある。但馬むしの会は、1994年7月30・31日の両日、この施設を利用して採集会を開催した。今回、その時に採集したクモ類についてまとめると共に、浜坂町のクモ相について若干の新しい知見があったので報告する。

報告に先立ち、お世話になった久斗山地区の井上正人区長、ならびに素晴らしい生態写真を提供して下さった当会の足立義弘氏に感謝を申し上げる。

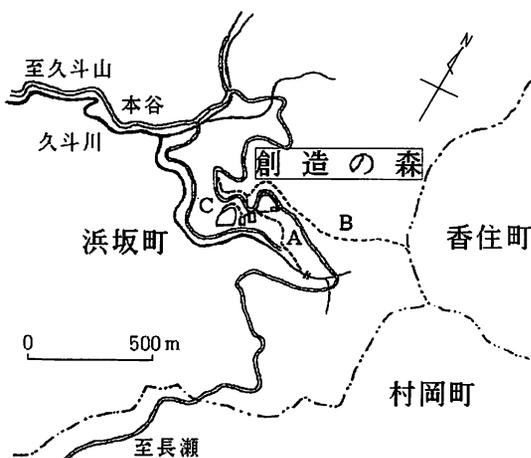
## 採集地の概要

「創造の森」は、本谷の集落より約500m上流に位置し、落差約15mの滝を前にしており、谷を林道工事で発生した土により埋め立て、その後形成された広場を利用して地域の人々が野外活動施設として給水設備や管理棟、遊歩道、山小屋などを整備し、1988年にオープンした。その後、1990年の19号台風の襲来によって設備の一部が被害を受けたが、現在、完全とは言えないものの復旧がなされている。1992年より、神戸市にある「ブナを植える会」（会長、片山英一氏）によってブナの苗が植樹されるようになり、1994年までの3年間で約1,000本が植樹されている。

周囲は久斗川の源流部の一帯であり、標高は300~400mである。林相はコナラなどからなる落葉広葉樹の二次林で、一部にスギなどの針葉樹の植林地がある。管理棟から北側の尾根にはシャクナゲの群生地があり、尾根づたいの遊歩道を登ると標高450m付近より樹齢の若いブナの林が現れ、以前は一帯がブナの自然林であったと思われる。

クモの採集は、図に示したA、B、Cの3箇所でおこなった。

A—管理棟からススキが群生する埋立地の斜面を横切りコナラ林へと入って谷へと通ずる遊歩道の周辺。B—管理棟から尾根へと登りブナ林がある山頂付近までの遊歩道の周辺。および追加として後日調査した、C—本谷の集落より谷に沿って付けられた道路の周辺である。



創造の森周辺の概念図

## 方法

採集方法は、主にクモの生態を観察しながらハンドソーティングにより、Cでは樹木の枝先などのクモをピーティング法によって採集した。

さらに、直径5.5cm、高さ10cmの空缶に10%の石鹼水（無香料）を入れたホールトラップ（落とし穴トラップ）をA（ススキの群生地と雑木林に各5本、計10本）・B（ブナ林の遊歩道ぞいに）それぞれ10本、合計20本を30日の夜間（22時）に設置し、31日の朝（9時）に回収した。なお、30日の夕方（18時~20時）に強いわか雨が降ったが、連日の好天で林床はかなり乾燥状態であった。

## リスト

採集データの記述については、本誌の投稿規定に準ずるものである。しかし、次の略号を用いて簡素化した。ただし、該当しないデータの場合は明記した。科、種名は学名、和名の両方を用い、冒頭に番号を打つことで所在をわかりやすくした。また、「\*」のついたものは、浜坂町の新記録である。観察した生態や、特記しなければならない事例のある種の解説は別の項で述べる。

配列は八木沼ら（1990）に基づいたが、できるだけ新しい分類体系に従うよう心がけた。

[略号の意味]

♂a…雄の成熟個体.

♀a…雌の成熟個体.

y…性別不明な未成熟個体(幼生).

A…採集日:1994年7月30日~31日.

天候:晴れ(30日の夕方にわか雨).

場所:「創造の森」管理棟から谷に至る遊歩道の周辺.

採集者:筆者(永幡嘉之, 足立義弘, 足立啓悟).

B…採集日:1994年7月31日.

天候:晴れ.

場所:尾根の遊歩道周辺.

採集者:筆者(永幡嘉之, 足立義弘, 足立啓悟).

C…採集日:1994年8月3日.

天候:晴れ.

場所:谷沿いの道路周辺.

採集者:筆者.

Uloboridae ウズグモ科

- 1 *Hyptiotes affinis* オウギグモ 1♂, A.  
 \*2 *Uloborus sybotides* カタハリウズグモ 1♀a, C.

Theridiidae ヒメグモ科

- 3 *Achaeareana japonica* ヒメグモ 2♀a, A.  
 4 *Argyrodes cylindrogaster* オナガグモ  
 1y, A. 2y, C.  
 \*5 *Argyrodes fissifrons* チリイソウロウグモ 1♀a, A.  
 \*6 *Argyrodes fur* フタオイソウロウグモ 2♀a, A.  
 7 *Argyrodes saganus* ヤリグモ 1♀a, A.  
 \*8 *Dipoena castrata* ボカシミジングモ 1♂a, A.

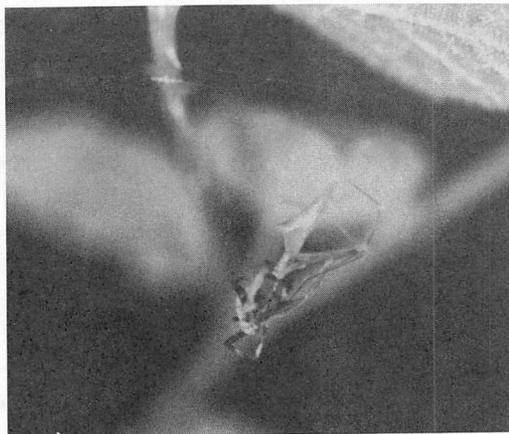


写真1. クモを捕食しているヤリグモ(足立義弘撮影)

\*9 *Dipoena mustelina* カニミジングモ

- 2♂a, 1♀, A.  
 10 *Phoroncidia pilula* ツクネグモ 1♀a, C.  
 11 *Theridion rapulum* ギボシヒメグモ  
 1♂a, 1♀, A.  
 \*12 *Theridion subpallens* ハイイロヒメグモ  
 1♂a, 1♀a, A.

Linyphiidae サラグモ科

- 13 *Diplocephaloides saganus* ハラジロムナクグモ  
 4♀a, C.  
 \*14 *Erigonidium nigriterminorum* ハシグロナンキングモ  
 3♀a, C.  
 \*15 *Hylyphantes graminicala* クロナンキングモ  
 3♀a, C.  
 \*16 *Labulla contortioes* アシヨレグモ  
 1♀, A. 1♀, C.  
 17 *Linyphia longipedella* アシナガサラグモ  
 1♀a, A. 1♀a, C.

Mimetidae センショウグモ科

- 18 *Ero japonica* センショウグモ 1♀a, A.

Theridiosomatidae カラカラグモ科

- 19 *ogulnius pullus* ヤマジグモ 1♀a, 1y, A.

Araneidae コガネグモ科

- 20 *Acusilas coccineus* ハツリグモ 1y, A.  
 \*21 *Araneus ishizawai* イシサワオニグモ  
 1♂a, 1♀, A.  
 \*22 *Araneus punctiger* コゲチャオニグモ  
 1♀, A. 1♂, C.  
 23 *Argiope minuta* コガタコガネグモ  
 3♂a, 1♀a, A. 1♀a, B.  
 \*24 *Cyclosa ginnaga* ギンナガゴミグモ  
 1♂, 2♀, A. 1♀a, C.  
 25 *Cyclosa sedeculata* ヨツデゴミグモ 1♀a, A.  
 26 *Cyrtarachne inaequalis* オオトリノフンダマシ  
 1♀, A. 1♂a, 1♀a, C.  
 27 *Cyrtarachne yunoharuensis* アカイロトリノフンダマシ  
 1♀a, A. 1♀a, C.  
 28 *Gasteracantha kuhlii* トゲグモ  
 1♀a, Aと同じ場所, 1995-VII-29, 筆者(目撃確認).  
 \*29 *Mengora herbeoides* ゴマジロオニグモ 1♂, A.  
 \*30 *Neoscona mellittei* ワキグロサツマノミダマシ  
 2♂, A. 1♀a, C.

31 *Neoscona scylloides* サツマノミダマシ 1♂a, A.

Tetragnathidae アシナガグモ科

\*32 *Leucauge sabblanda* コシロカネグモ 2♀a, A.

\*33 *Leucauge subgemma* キララシロカネグモ 1♀a, A.

34 *Nephila clavata* ジョロウグモ

1y, A. 1♀, C.

35 *Tetragnatha macillosa* ヤサガタアシナガグモ 1♂a, C.

Agelenidae タナグモ科

36 *Agelena limgata* クサグモ

1♀a, A. 1♀a, B. 2♂a, C.

37 *Coelotes yaginumai* カミガタヤチグモ 1♀, A.

Pisauridae キシダグモ科

38 *Dolomedes sulfureus* イオウイロハシリグモ 2♀, A.

Clubionidae フクログモ科

39 *Chiracanthium japonicum* カバキコマチグモ 1♀a, A.

\*40 *Phrurolithus komurai* コムラウラシマグモ 1y, B.

Thomisidae カニグモ科

41 *Misumenops japonicus* コハナグモ

1♀a, 卵のう, A. 1♀a, C.

42 *Oxytate striatipes* ワカバグモ 1y, A. 1y, C.

43 *Pistius undulatus* ガザミグモ 1y, A. 1y, C.

Salticidae ハエトリグモ科

44 *Carrhotus xanthogramma* ネコハエトリ 1y, C.

45 *Evarcha albaria* マミジロハエトリ 2♂a, A.

46 *Myrmarachne japonica* アリグモ 1♀a, A.

47 *Pintella linea* メガネアサヒハエトリ 1♀a, C.

48 *Pintella mellottei* マガネアサヒハエトリ 1♀a, C.

49 *Plecippides doenitzi* デーニッツハエトリ 1♂, A.

50 *Rhene atrata* カラスハエトリ 1♀a, B.

追加

51 *Achaearanea tepidariorum* オオヒメグモ (ヒメグモ科)

1♀, C.

以上, 12科51種を記録する.

生態

今回採集を行った谷沿いのAと, 尾根のBとを比較してみると, 前者で得られたものが圧倒的に多く, 後者ではわずか4種類を得ただけであった. 雨の降らない晴天が約1カ月以上も続き, 尾根の周辺はかなり乾燥していた. その影響で少なかったと思われる.

Aの雑木林の中では, 夜間, コナラなどの樹間にイシサワオニグモやコゲチャオニグモ, サツマノミダマシ, コガタコガネグモなどが円網を張っているのが観察された. また, 7月29日の夕方, 下見に訪れた際にトゲグモが網を張っていたが, 30日の夜には確認できなかった.

コガタコガネグモは, 日中でも網を張っており, 「X」字形の隠れ帯をつけた網のこしきの部分に点座しているが, 夜間と比べて人の接近に対して敏感に反応し, 地表に糸を引いて落ちてしまう.

地表に近い下生えなどに張られたクサグモの網の迷網の部分で, チリイソウロウグモとフタオイソウロウグモが観察された. チリイソウロウグモにおいては, 長い柄のある薄い茶色をした卵のうを2個作っていた. Bのブナ林で見られたクサグモの網には, センチコガネの残骸がついているのを2例観察した.

Aのススキの群生している場所では, オオトリノフンダマシを多数見ることができた. 日中はススキの葉の裏で足を縮めてじっとしており, 夜間, 草間に張った糸を渡っている場面がよく見られた. しかし, 完成された網を確認することはできなかった. また, 雑木林の樹間で, 卵のうを2個確認している.

ススキの葉を丸めて作られたカバキコマチグモの産室が多数見られたが, すでに子グモが出てしまったものが多く, 割って中を覗いてみると食べられた親グモの残骸が入っていた. 1例だけ, まだ産卵していない雌グモを採集することができた.

ホールトラップでは, Aの雑木林に設置したものにおいてカミガタヤチグモの雌が1個体得られただけで, それ以外はクモ類はまったく入っていなかった. クモ以外では, A-ヨコエビの一種3・カマドウマの一種3・多



写真2. キララシロカネグモ (足立義弘撮影)

足類4, B-アリの一種多数・カマドウマの一種2, であった。

結果のまとめ

今回, 12科51種を記録する。浜坂町のクモ類は, 23科124種が今までに記録されており(山本, 1976・1977; 本庄・山本, 1990), 今回17種が新たに加えられることにより, 23科142種が明らかとなった。そのうち, ゴマジロオニグモについては兵庫県北部, 但馬地方において初めての記録である。得られた個体は雄の未成熟個体であったが, 八木沼(1986)による形態の記述から本種と同定した。

参考文献

Tanikawa, A (1992) A revisional study of the Japanese spiders of the genus *Cyclosa* MENGE (Araneae: Araneidae), *Acta Arac.*, 41(1):11-85.

千国安之輔(1989)写真日本クモ類大図鑑, 偕成社, 東京。

本庄四郎・山本一幸(1990)但馬のクモ類目録, IRATSUME13・14:1-33.

八木沼健夫(1986)原色日本クモ類図鑑, 保育社, 大阪。

八木沼健夫(1992)日本産クモ類の最近の知見, ATYPUS100:36-40.

八木沼健夫・平嶋義宏・大熊千代子(1990)クモの学名と和名 その起源と解説, 九州大学出版会, 福岡。

山本一幸(1976)浜坂町の蜘蛛, *The Biological World* 9:73-78.

山本一幸(1977)浜坂町の真正蜘蛛類について, *Aculeatus*10:5-32.

## クミサラグモの交接中の行動について

山本 一幸

クミサラグモ *Limyphia fusca* (Oi, 1960) は, 4月から6月頃に雑木林の林縁を歩くとよくみかけるクモである。その網は, 低木などの枝先に不規則に張りめぐらした糸と, 浅いお椀形をしたシート網からなり, クモはシート網の底に背面を下にして水平に点座している。

この度, クミサラグモの交接している現場に遭遇し, 興味深い行動を観察する機会があったので報告する。

データ

日時: 1995年5月19日, 15時40分~16時00分

(観察のみに要した時間は約15分間)

場所: 兵庫県美方郡浜坂町久谷字袋谷, 標高約40m.

環境: 谷間の小さな溪流の付近。周辺の山地は, 中腹より上はスギ, ヒノキの若年令の植林地。谷沿いは一部コナラなどの雑木林となり, 溪流に面した林縁はノブドウやゴヨウアケビ, サルトリイバラなどの蔓植物が絡みつき, タニウツギやモミジイチゴなどの低木がある。雑木林の林床はササが密生する。

観察材料となったクモは, 雑木林の林縁のノブ

ドウの蔓が枝分れした部分に作られた網におり, 地表から約1.5mに位置していた。

結果

観察を始める前からすでに, シート網の下中央で, 雌雄が背を下にして交接を行っていた。誤って網のある蔓に触れたため, 網全体が揺れたことにより雌雄が離れ, 雌は網の端へ移動した。交接が中断された雄は, 小刻みに体を動かしながら雌の近くを回り始めた。しばらくして雌が網の中央にもどると, 雄は正面から接近し, 第1・2脚で雌の体にゆっくりとした動きで触れ, そのまま頭部を雌の胸元に潜り込ませて交接に至った。

交接時の雌雄の体勢は, 雄の頭部前面が雌の上顎付近に接しており, 雌は網の下にほぼ水平であるのに対し, 雄はやや垂直に近く, 雌雄の体は直角に近い角度で接しており(次ページの図), その体勢は新海・高野(1984)の写真と同じであった。体が角度をもって接している点ではヨツボシサラグモの交接時の体勢(池田, 1992)に似るが, 筆者の観察したヘリジロサラグモでは(山本, 1981)雌雄がほぼ平行に接している点で異なっている。